

再発見memo

秋葉のクロマツ

高さ約17メートル、幹の周囲約4メートルあり、樹齢約300年といわれ、都の天然記念物に指定されている。木の根元に秋葉神社の祠がまつられていることから、この呼び名になった。

宝来公園

梅(白21本、紅47本)で有名な公園で、自然林を生かしており、カモがたむろる池や噴水が設けられている。いる。

大田の魅力 再発見

田園調布ウォーク

Denencyofu



→ オススメ散策道
i バス停



0 100m



大田観光協会刊
(2022年3月)

再発見memo

多摩川台公園

多摩川に沿って伸びる丘陵地に約750mにわたり、66,661㎡の広さを持つ公園で、亀甲山古墳、宝来山古墳、多摩川台古墳群の上に位置している。自然林の道、古墳展示室、展望台、水生植物園、四季の野草園、あじさい園、山野草のみち、広場などがあり、特に桜、あじさいの時期は多くの人を訪れる。

多摩川浅間神社

北条政子が、信仰する富士浅間神社に、夫である源頼朝の武運長久を祈り、この地に持仏の観音像をまつたのが始まりとされる。この地でも5世紀末~6世紀前半にかけた全長60mの前方後円墳が発見され「浅間神社古墳」と呼ばれている。

区内最古のトンネル

区内最古のトンネル内には東京府時代のマンホールがある。

六郷用水遊歩道

六郷用水は江戸近郊農村の開発と徳川家の財政的な安定を目的に生まれた農業用水。住宅化に伴い多くは埋め立てられてしまったが、多摩川駅から沼部駅にかけて遊歩道として整備され、湧水を利用したせせらぎがある。

桜坂

昭和初期に、旧中原街道の切通しにサクラが植えられ「桜坂」と命名された。福山雅治の曲で全国的に有名になった。

多摩川 (たまがわ) かわめぐり地図

発行：大田観光協会

山梨県・笠取山を水源とし、東京都・神奈川県を流れ大田区・羽田で東京湾に注ぐ全長一三八キロの大河。下流域に位置する大田区は歴史的に多摩川の恵みを受けて発展し、多摩川の自然景観は今でも色濃く残り、史跡など多くの観光スポットが点在しています。武蔵野台地の縁辺にあたる大田区には、四〜七世紀に周辺を治めた首長の墓地とされる古墳が多く分布しており、多摩川台公園にある宝菜山古墳、亀甲山古墳は畿内が起源とされる前方後円墳の流れを汲んだ貴重な史跡とされています。また、当時の陸地は現在の海拔十メートルラインとされ、それに沿って遺跡も発見されています。時代は多摩川を渡るようになり、橋が架かるまでは、丸子、矢口、六郷、羽田のそれぞれの渡し舟が人々の生活を支えました。徳川家康は江戸開府に備え、一五九七年、関東平野の田畑開発を進めるため多摩川の水を取り入れた六郷用水建設を小泉次太夫に命じました。網の目の様に張り巡らされた用水が一六二一年に完成し、歩道となって我々に憩いの場を提供してくれています。

江戸から東京へ、市街地として発展する為の必要建築資材を運ぶルートとして活用されたのも多摩川でした。奥多摩の山林で伐採された材木が筏を組んで多摩川を下り、六郷を経由して本所、深川の材木問屋まで運搬されてきました。一方で多摩川は、現在でも台風などの増水で河原が冠水するようになり、昔から暴れ川として名を馳せており、多摩川に架けられた橋も度々、水害に遭い流失しました。神奈川県との県境は明治時代に多摩川の中央と定められましたが、地図に示された県境線は場所によっては多摩川の中央から大きくずれています。これは明治時代以降も多摩川が暴れ川として活動したことを表しています。多摩川は悠々の歴史の中で徐々に流れを変えてきましたが、四季折々の花と緑、水の景観と共に多くの文化を大田区にもたらしてくれました。田園調布から羽田まで約十三キロの中に変化にとんだ景色が広がり、特色ある地域文化歴史が残されています。この「多摩川かわめぐり地図」を手に、皆様方それぞれの「大田の魅力発見コース」を味わって頂くことを願っております。

多摩川の写真

丸子橋から大師橋、そして東京湾へ注ぎ込む河口まで、それぞれの風情、においがあります。大田区の特つそれぞれの魅力をぜひ多摩川のほとりで感じてください。



多摩川の遺跡・古墳

大田区には多くの遺跡・古墳が分布しており、現在の海拔十メートルライン（縄文時代の海岸線）に沿って多く発見されています。また、点在している温泉銭湯は黒褐色の「黒湯」で、大昔の海水に由来しています。大田区の風土・文化の礎は多摩川と海岸線の変遷によるものが大きいようです。



大田観光協会
多摩川
 TAMAGAWA
 かわめぐり地図